

令和2年度 第1四半期 (4月～6月)

景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 ビジネスサポートセンター

全産業業況DI値は前回調査から20.7ポイント悪化、令和元年度第1四半期からは53.4ポイント悪化

■全業種概要

全産業の総合判断DI値は▲63.8(前期比▲20.7、前年同期比▲53.4)、来期見通し(4月～6月)について、業況DI値は▲69.6(当期比▲5.8)となった。

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う営業自粛や緊急事態宣言の影響で、すべての業種において売上減少に陥っている他、終息の目途が立たず先行きを不安視する声が多く聞かれた。

設備投資については、「実施した」との回答が33.9(前期比▲3.8、前年同期比▲2.7)、来期に設備投資を「計画している」との回答は30.6(当期比▲3.3)となった。

■製造業

業況DI値は▲69.4(前期比▲26.2、前年同期比▲55.3)、来期の見通しについては▲73.8(当期比▲4.4)となった。

印刷業では、イベントの中止でチラシやプログラム等の受注が減少したとの声が聞かれる他、自動車・鉄鋼業界でも受注が減少するなど新型コロナウイルス感染拡大、米中貿易摩擦による先行きを不安視する声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「人件費の増加」、「消費者・製品ニーズの変化への対応」が主に挙げられる。

■建設業

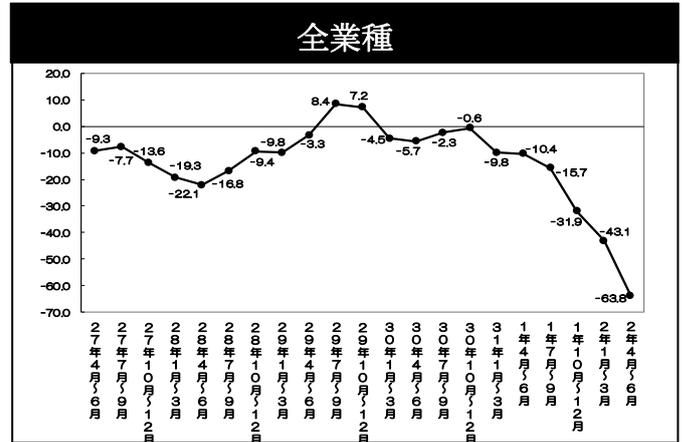
業況DI値は▲42.9(前期比▲25.5、前年同期比▲47.1)、来期の見通しについては▲59.3(当期比▲16.4)となった。

営業活動の自粛や民間工事の受注停滞、延期などにより売上減少の声が聞かれる他、来期の見通しとして、工事の延期や建設投資抑制による先行きを不安視する声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「民間需要の停滞」、「官公庁需要の停滞」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。

調査概要

- 調査対象
 - (1)対象地区：豊橋市内
 - (2)対象企業数：338社
 - (3)回答企業数：175社(回答率51.78%)
- 調査期間
令和2年4月～6月
- 調査方法
往復はがきによるアンケート調査
- 回答企業の内訳
製造業85・建設業27・卸売業21
小売業20・運輸業12・サービス業10

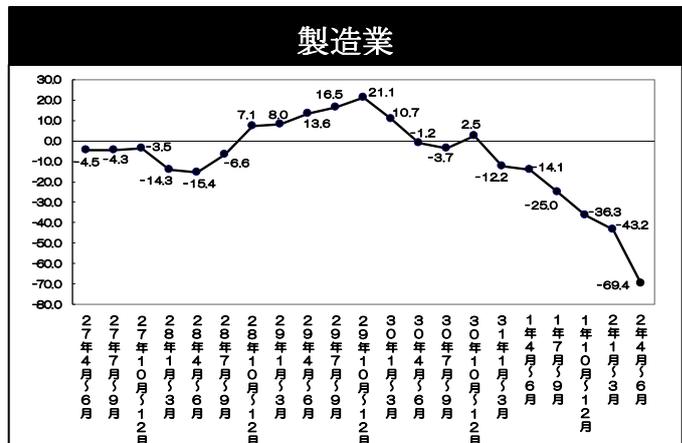


《A》前年同期(令和元年4月～6月)と比較した景況感

良い	同様	悪い	DI値	
5.7%	24.7%	69.5%	▲63.8	↓

《B》来期(令和2年7月～9月)の景況見通し

良い	同様	悪い	DI値	
2.3%	25.7%	71.9%	▲69.6	↓

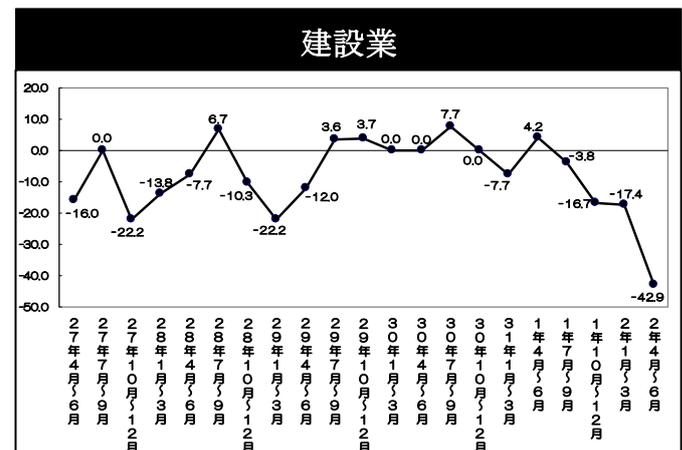


【前年同期比】令和元年4～6月

自社の業況	▲69.4	↓
-------	-------	---

【来期見通し】令和2年7～9月

自社の業況	▲73.8	↓
-------	-------	---



【前年同期比】令和元年4～6月

自社の業況	▲42.9	↓
-------	-------	---

【来期見通し】令和2年7～9月

自社の業況	▲59.3	↓
-------	-------	---

■卸売業

業況 DI 値は▲70.0（前期比▲20.0、前年同期比▲70.0）、来期の見通しについては▲75.0（当期比▲5.0）となった。

取引先店舗の営業自粛や販売会の中止などの影響で業況が悪化しているとの声が聞かれる他、今後景気の回復に向け、需要喚起できるかが課題との声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「人件費の増加」、「人件費以外の経費の増加」が主に挙げられる。

